

2024年2月11日 青戸教会 「5000人への供食」

聖書 申命記8章1〜6節、ヨハネ福音書6章1〜15節、 高橋克樹牧師

川島貞雄先生が1月31日午前9時55分に千葉西総合病院にて召されました。89歳でした。川島貞雄先生の遺志により、親族以外には知らせないという遺言によって、2月7日に四ツ木斎場にて、教え子の山口雅弘牧師の司式で葬儀が執り行われました。私も葬儀に出席させていただきました。

川島先生らしく、青戸教会の皆さんにご迷惑をおかけしないという思いで、知らせないという配慮が働いたものと思われまます。ですから、川島先生の関係したところには、葬儀後に亡くなられたことをお知らせしました。お配りした略歴を見ていただくと、教会だけでも大塚平安教会、田園江田教会、田園調布教会、教鞭をとられた青山学院大学、日本聖書神学校、東洋英和女学院大学に召天されたことと、親族だけで密葬を終えたことをお伝えしました。

略歴を私なりに整理してみました。私は川島先生が日本聖書神学校を辞して、東洋英和女学院大学に移られた時、神学校（4年制）の3年生でした。東洋英和女学院短期大学が現在のようになり、4年制の大学に移行するのに伴って、川島先生の学問的業績が必要だったことが大きかったのです。私が神学校を卒業して、田園調布教会の担任教師になった後も、川島先生は月に1回、田園調布教会の朝の主日礼拝の説教にいられていました。

それは、日本聖書神学校の創設者である岡田牧師との関係性によって、月に1回の説教にいられていたのです。岡田五作牧師は田園調布教会を開拓伝道されて大きな教会に育てられた後、田園江田教会を開拓伝道しました。ところが、岡田五作牧師が四国のいくつかの教会で伝道活動をされていた途中で、駅のホームで倒れられて、当時田園江田教会の主任牧師でありました。したが、病床に伏し、そのために川島貞雄先生が主任担任教師の代務者として2年間説教と牧会を担われて、次の牧師が赴任するまで働かれたのです。

また、私が日本聖書神学校で総務部長となって豊島岡教会の牧師と二束の草鞋をしていた時、東洋英和女学院大学の大学院の死生学コースに進学したので、大学院ではしばしば川島先生とお会いしました。

少し略歴をさかのぼりますが、川島貞雄先生が中山牧師の感化を受けて、伝道者を志して青山学院大学文学部キリスト教学科に入学されたのが、1952年のことです。後に新約聖書学者である高柳伊三郎教授のゼミに入られたことで新約聖書学の研究に開眼したのです。青山学院大学のキリスト教学科はメソジスト教会の牧師を養成することを主たる目的にしています。そして、ニューヨークにあるユニオン神学大学院に

留学したのです。日本聖書神学校は日本における福音教会が母体になっていますが、温美先生は、この福音教会である須賀川教会の牧師のお嬢さんでした。須賀川教会の牧師のお嬢さんで、青山学院大学の神学部に入学されたのです。福音教会は田園調布教会や目白教会、小石川白山教会、東金教会などが福音教会です。そして、福音教会は青山学院大学の神学部には教師養成を委託していました。

ただ、当時の青山学院大学の神学部は大学紛争の時節で、当時の大木金次郎理事長が神学部の教員が学生に同調的だったことを嫌がって、神学部の教員に圧力をかけていました。ですから、新約学の荒井献（東京大学へ移籍）先生、知恵文学の西村俊昭（のちに日本聖書神学校教授）、旧約の木田献一（立教大学へ移籍）らが他大学に移ったのです。これらの先生たちが、

私が入学した頃は、教授であったり、講師であったりしたのです。ですから、当時の日本聖書神学校の教授陣は非常に豪華な顔ぶれでした。今では詳しいことはわかりませんが、川島貞雄先生が教務部長として学生の教育面を主に指導していたのですが、岡田五作校長の発案によって1971年に学制改革によって、それまでの高卒者を入学資格であったものが、大学卒業者に変更になりました。その時、教務部長名で大学卒業資格に変更することに、それまでの高卒の卒業生が反発したのです。その矛先は教務部長だった川島貞雄先生に向けられ、それ以降、古い卒業生から川島先生が目の敵にされることになったのです。辞める前に教授会で川島先生を次期の校長にする決議がなされたのですが、理事会でひっくり返りました。こうして、1989年3月をもって川島貞雄先生が日本聖書神学校を辞することになったのです。私に言わせれば、どうして自分が誤解を受けていることに対して弁明をしなかったのかと思います。

さて、本日の聖書箇所は、5000人に食べ物を与える奇跡をイエスが行った物語です。イエスは、大勢の群衆が御自分の方へ来るのを見て、弟子のピリポに「この人たちに食べさせるには、どこでパンを買えばよいだろうか」と尋ねています。そのように尋ねたのは、ピリポを試みるためであったとの説明書きが書いてあります。すると、ピリポはめいめいが少しづつ食べるためには200デナリオン分のパンでも足りないでしょう、と答え、さらにアンデレが大麦のパン5つと魚2匹を持った少年がいますが、これではこんな大勢の人に食べさせることは不可能でしょうと言ったのです。ここに登場する弟子のピリポもアンデレも至極真っ当な見通しを言っています。

けれども、イエスは5000人に食べさせるために必要なパンを買うためにどれだけ必要なのかということに関心が向いていないのです。この奇跡はどのようにして起こったのか？ということが古来いろいろな説明でされてきました。大麦パン5つと魚2匹を持参していた少年が自分の持ち物を5000人に提供するという決断をしたことに、それまで、自分の命を保つするために必要な食べ物を自分のためだけに取り置いておくことが人間として相応しい考え方なのかということが突きつけられたのです。このような大人たちが自分の持参していた食べ物を5000人のために提出したという奇跡がここで起こったのではないかと解釈されてきました。それは、自分が他者とのような関係性を創り出すことが大切なのかということが大人たちによって共有されたからです。

東洋英和女学院大学の大学院は社会人向けの大学院だったので、土曜日に講義が集中していました。大学院で宗教コースを担当されていましたが、日曜日の準備をするには大変なこともあったと思います。東洋英和女学院大学でも学長候補になりましたが、なぜか学長になることはありませんでした。イエスが5000人に食べさせるためにどうしたらよいかと弟子に尋ねられたのですが、そこで現実的な見通しを聞くことをイエスは望まれました。川島貞雄先生の学問的な功績は誰もが認める所ですが、青山学院大学を追われることになり、日本聖書神学校でも不本意な形で辞めることになり、東洋英和女学院大学でも権力闘争に関わることなく、自分の果たすべき役割を果たすことに徹した生き方を貫き通したことの背後には、神さまが川島先生を用いて、この世の価値観に翻弄されることなく、自分の使命を果たすようにと導いておられたことを示している生涯であったと思われるのです。